

チュートリアルセッション

2025.10.31 金 14:00-17:00

参加費 会員：10,000円 / 非会員：20,000円 / 学生：2,000円

現地および後日オンデマンド配信(リアルタイム配信なし)

トラック① 薬剤疫学の基礎

日本薬剤疫学会では、学術総会ごとに領域のニューカマーや実務家を対象とした薬剤疫学の基礎コースを提供している。今年度のセッションでは、医薬品使用の実態と質を捉える「Drug Utilization Research」、観察データから因果を推定するための基盤を学ぶ「統計的因果推論の基礎と実務応用への接続」、そして安全対策措置の検討や意思決定の根拠に資する研究の在り方を扱う「ファーマコビジランスと薬剤疫学」の3講義を、各分野の専門家が実務に直結する視点から解説する。

1. Drug Utilization Research



西村 志織
(横浜市立大学)

2. 統計的因果推論の基礎と実務 応用への接続

小向 翔
(東京医科大学)

3. ファーマコビジランスと 薬剤疫学



渡邊 慎也
(医薬品医療機器
総合機構)

トラック② 誤分類バイアス補正モデリング ーバリデーション研究の一步先にー

近年、医療情報データベースを用いた薬剤疫学研究における患者特定に用いるアルゴリズムの妥当性が重要視されている。特に、有効性や安全性評価におけるアウトカム定義のバリデーション研究の重要性については広く認知され、本邦でも多くのアウトカムバリデーション研究が実施されてきている。多くの薬剤疫学研究では、バリデーションされた“性能”（特異度・的中度など）の高いアウトカム定義を用いることで満足されがちだが、実際は定義の特異度や的中度が100%でない場合、それらを利用した推論にはバイアスを生じうる。よって、バイアスのない効果・リスク評価には、“性能”の値に基づくアウトカム定義による誤分類バイアス補正が必須であり、バリデーション研究はこのようなアウトカム誤分類補正のための外部情報源と考えるべきである。しかし、バリデーション研究と、その後の誤分類バイアス補正法を一貫した流れで学ぶ機会は殆どない。

そこで、本セッションではまず、医療情報データベースを用いた薬剤疫学・臨床疫学研究におけるバリデーション研究の概要と事例について紹介し、続けてバリデーションや誤分類に関する国内外のガイドラインの現状と推奨事項について紹介する。最後に、バリデーション研究によって得られた定義の“性能”に基づく誤分類バイアス補正モデリングの概要について紹介する。

1. バリデーション研究の概要 および事例



山名 隼人
(自治医科大学)

2. バリデーションや 誤分類に関するガイドライン



石黒 智恵子
(国立健康危機管理
研究機構)

3. 誤分類バイアス補正 モデリングの概要



竹内 由則
(横浜市立大学)

